

教科等研究会（小学校社会科部会） 平成30年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

児童が主体的に思考・判断し、表現する社会科学習の創造
～問題解決的な学習の工夫を通して～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5/24	32人	滝尾小	10/18	広安西小	北遼太郎	12/6	御船小	河島加奈	1/24	嘉島西小	本田聡太郎

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究主題設定の理由

・教育の今日的課題から

「知識基盤型社会（新しい知識、情報、技術が、政治、経済、文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会）」と言われる時代がはじまり、とりわけ、旧来のパラダイムの転換を伴うことの多くなる社会では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断がますます重要になると考えられるようになった。これから求められる「生きる力」とは、社会が日進月歩で変化しつつある中で、社会に主体的に対応し、問題解決に取り組める力であり、目指す人間像でもある。

今年度から新学習指導要領の2年間の移行期となる。新学習指導要領のキーワードは「主体的・対話的で深い学び」の実現であるが、このことは、社会科においては知識・技能を活用することで思考力・判断力・表現力等を育成し、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すものであり、それらは問題解決的な学習による学びの必要性も示唆している。

また、国内外の学力に関する学力調査からも思考力・判断力・表現力等を問う記述式の問題に改善されつつあるものの、やはり課題であることが明らかとなっている。

今後も習得した知識や技能をもとに、活用する力を培うことが、今日的な教育課題である。

・本研究部会の歩みから

本テーマは6年次となる。研究会では学習指導要領をもとに、主体的に調べて考える学習活動及び児童の問いを大切にしながら問題解決的な学習を進めてきた。特に言語活動を大切にしながら課題を追究していく学習の取組は、多面的な思考力や判断力、表現力を育成する上で大きな成果をあげてきたと考えている。

今年度もこれまでの研究の取組の成果をはじめ、本郡の県学力調査の分析結果、上益城郡の研究テーマを踏まえた上で、これまでの社会科学研究会の歩みを土台として言語活動の充実及び習得した知識や技能をもとに思考・判断し、表現する授業づくりを充実させ、進めていくこととする。

② 研究の視点

視点1 「進んで課題を追究する問題解決的な学習の工夫」

児童が課題を発見し、問いを持ち、課題解決の活動を実践しようとする学習を行うことが主体的な学習を行うことであると考えている。そのために、児童に様々な社会的事象に出会わせたり、生活体験から学習対象とする社会的事象に気づかせたりするなどの手立てが必要であり、児童が意欲を持って学習する態度の育成につながると思う。

これまで、「主体的に考え、表現する」学習活動として、問題解決的な学習（「課題づくり」→「予想」→「追究・調べ学習」→「情報整理」→「再追究」→「学習のまとめ」）の実践が積み重ねてきた。

今年度も「問題転化学習」による問題解決的な学習を充実、深化させて研究を行っていく。

視点2 「獲得した知識や技能を活用する学習活動の工夫」

本研究会の取組では、単元（題材）に即した基本的な知識や技能の習得を学習過程に位置づけ、獲得した知識をもとに今後の社会の情勢や変化について思考させる取組を行ってきた。今年度も社会科の土台を確実に身につける指導の工夫を行うこととする。

社会科の技能は観察と資料活用である。今年度も、調べたことから根拠を見つけ、思考・判断したことを表現し、自分の考えを他人と交流して、学習を深めることができる力を活用する力ととらえて研究を進めていく。

視点3 「児童のよさを伸ばし、次の実践に生かすための評価活動」

評価活動では、教師が児童のよい点を励まして学習意欲を高めたり、児童一人一人の学習目標の達成状況をより正確かつ効果的に把握したりすることを大切に、これまでの指導及びその成果を振り返り、今後の指導改善に生かしたり、多様な達成状況の児童に対して、個別指導を行ったりするめやすとする。

本研究会では、めざす児童像に即して、学習後に新しい自分を発見するための評価や児童の変容を導くような評価、その児童の変容を見届ける評価を工夫する。

そのために、現実的、継続的かつ複眼的な評価が可能となる様々な方法を検証するものとする。

また、児童の取組や育ちを刻々に見取り、励ます指導的評価活動及び自己評価や自己変容記録、児童同士による相互評価等を更に充実させた形成的評価等の取組の充実を図る。

視点4 「人間の生き方に迫ることのできる教材化の工夫」

社会科は、人間の営みを通して人間の生き方を学び、自らの生き方を考えるという本質をもつ教科である。そのため、授業づくりでは、学習の中で人間の生き方にふれ、何を学ばせるかに重点をおくことが大切となる。

本研究では、ねらいを明確にし、日常生活に密着した内容から入るなどの工夫を行いながら、ゲストティーチャーをはじめ様々な手立てで人の生き方や考え方を学習したり、人材を活用したりすることが教材の本質につながると考えられる。

上益城郡では、熊本地震において、本県最大の震災を経験することとなった。そこには、復興や絆を取り戻そうとする人々の姿やその現実に対応し、問題解決に取り組もうとする人々の姿があった。まさに、社会科で目指す人間像があった。

本研究では、それらの教材化も重点的に行っていくこととする。

(2) 成果と課題

【成果】

- 部会員による主体的かつ積極的な研究活動により、事前研究会や授業研究会における学びの深化、活性化が図られた。特に授業研究会では、ワークショップ形式による活発な意見交換と協議を行い、研究を深めることができた。

また、学年毎による部会編成により、同担当学年同士で研究を深めることができ、実践的な研究活動を行うことができた。

- 提案授業では、児童にとって身近な地域素材を教材化し、問題解決的な学習による授業実践の取組を行った。地域教材を活用することで児童の学習意欲の向上が図られ、主体的に問題解決に取り組む姿が見られた。

- 研究の視点を明確にすることにより、事前研究会、授業研究会をはじめ、活発な研究会が行われた。

特に事前研究会への出席率は高く、会員の意見交換もよく行われ、研究の活性化が図られた。

【課題】

- 児童の思考力、判断力、表現力等を高めることのできる言語活動の工夫及び教材開発が更に必要である。
- 地域素材をもとに教材化した単元の評価方法や評価基準の設定方法の研究が必要である。
- 社会科部会員でない教師にも事前研究会への参加の呼びかけや研究内容等を伝えるなど郡内全体の社会科研究の普及、向上に今後も努める。



【ワークショップによる研究会】

4 実践事例

(1) 授業の概要

- 単元名 「震災復興の願いを実現する政治」（東京書籍 新しい社会 6下）

【研究の視点との関連】

視点1「進んで課題を追究する問題解決的な学習の工夫」について

- 身近な課題を設定することで学習意欲を高める。
- 学習展開と発問の工夫により児童の課題解決における追究意欲を高める。

視点2「獲得した知識や技能を活用する学習活動の工夫」について

- 自ら体験したり身近な教材を扱ったりすることで基本的な知識を理解しやすくする。
- 基本的な知識を理解した上で、発展的な共助のはたらきについて理解を深める。

視点3「児童のよさを伸ばし、次の実践に生かすための評価活動」について

- 対話的な活動を多く取り入れ、協同的な学習により学びを深める。
- 「いいねカード」の活用により対話活動を重視しながら思考を広げ深める活動を設定する。

視点4「人間の生き方に迫ることのできる教材化の工夫」について

- 地域の身近な人材を教材化することにより、学びの中にある人間の生き方に迫る。
- 教材化した人材の思いや生き方に触れる機会をつくり、児童自身が自分の生き方も考える学習とする。

【自 評】

- 震災に関連して自助、共助、公助の働きの大切さを学ぶ学習とすることができた。
- 学習過程で児童の思考を転化させる場面を取り入れたことで更に思考を深める学習とした。
- 地域人材を学習に取り入れることで、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。

【質疑・応答及び研究協議】

- 質) とても多くの資料から学習が構成されていた。学習の資料をどのようにされたのか教えていただきたい。
- 応) 役場からの資料や地域の広報から資料を収集した。また、役場の方からの聞き取り調査も行っている。VTR等はメディアなどからも収集できた。地域人材の情報等については、身近な地域にメディアに特集されている人物もおられ、聞き取り調査や授業で紹介した公民館等でのサロン活動を実際に体験することができた。
- 質) 今後の学習の流れと地域人材（江藤さん）の活用について教えていただきたい。
- 応) 本授業では、公助の働きを押さえた上で共助の働きの大切さに気付かせることができた。今後は、共助の働きについて更に詳しく考えるとともに、江藤さんの考え方や生き方をGTとして紹介したり、参加いただけたらと考えている。
- 協) 児童にとっては、公助の必要性はよく理解できるが共助の大切さについては漠然としていて理解しにくいことであると考えられる。そこで、今回の学習のように身近な地域で身近な人材を教材化し、具体的な内容を学習することで、意欲を持って学習を進めることができ、人間の生き方まで学ぶことができるよい学習になっていると考えられる。
- 協) 多くの資料が収集され、必要な内容を精選して学習が構成されており、児童にとって分かりやすかったと考えられる。学習で取り扱った地域人材の親戚が学級に存在していたことも児童の学習意欲の喚起につながりよい授業構成であったと思われる。



【助言・まとめ】

【思考を転化させるわかりやすい板書の工夫】

- 大変多くの資料を集められ、教材研究が十分になされた学習であった。指導者自らが地域に出向き、学習に登場する人材に聞き取りをされたり、地域の活動に参加されたりしたことにより、児童も学習内容に惹きつけられ、学習意欲の喚起につながったと考えられる。
- 児童にとっては、社会的なものの見方・考え方を学ぶよい学習になったと考えられ、授業で考えたことが、これからの児童の生き方や考え方にもつながっていくと思われる。児童は地域の住民として、自分なりにできることを考え、主体的に社会参画しようとする意識も育まれるなど有意義な学習になったと考えられる。

(2) 学習指導案

○ 単元の目標

- (1) 熊本地震からの復旧や復興の取組について具体的に調べることを通して、国や地方公共団体の政治は国民主権の考えの下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解することができる。
- (2) 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え表現することができる。

○ 単元の指導計画（10時間扱い）

内容（時数）	主な学習活動・内容	評価規準
①熊本の今と熊本地震について調べる。（1）	○震災復興について調べたいことを話し合い、学習問題を作る。	関意態
②地震直後の緊急対応について調べる（2）	○地震発生時の公助における緊急対応について調べ、国や県、町の働きを調べ、理解する。	思判表 資料活用
③復旧・復興に向けた国の取組を調べる（2）	○震災における復旧復興における国県町の取組を具体的に調べ、理解する。	関意態、思判表 観察・資料活用
④震災復興に向けた政治の働きをまとめる。（1）	○国や地方公共団体の取組は、御船町の復旧や復興の役割を果たすと共に公助の大切さを理解する。	思判表 知識・理解
⑤民生委員の江藤さんの活動と出会う【本時】（1）	○今城地区仮設住宅内の「今城サロン」の働きが共助の働きとなっていることに気付く。	関意態
⑥共助の働きについて調べる。（1）	○みんなで助け合う関係を作ることの大切さや普段から地域のつながりを作っておくことの大切さを理解する。	思判表
⑦他の共助の働きについて調べる（1）	○避難運営所やボランティアなどの働きや大切さを理解する。	観察・資料活用
⑧分かったことや考えたことをまとめる。（1）	○公助の働きと共に、共助の働きも大切であることをまとめ、自分の今後の行動を考える	思判表 知識・理解

5 本時の学習

(1) 目標

- ・江藤さんが地域での活動を行う理由を考えることを通して、地域のコミュニティを大切にすることが、なぜ震災復興とつながるのか予想することができる。

(2) 展開

時間	学習活動	児童の思考の流れ（・）	教師の支援（○）と評価	備考
5	1 これまでの学習を振り返る。	・国や地方公共団体の取組により復旧は進んでいる。	○公助の働きにより復旧が進んでいることを確認する。	写真
10	2 学習課題をつかむ。	・今城サロンって何。 ・今城サロンは震災復興のために役だっているのかな？	○江藤さんの主な活動を紹介する。	
なぜ江藤さんの取組が震災復興につながるのだろう。				
15	3 なぜ江藤さんが活動を行うのかを考える。 (1) 一人学び (2) グループ学び (3) 全体学び	・避難所にいた人も安心してた。 ・今城の方は一人ぼっちにならなかった。 ・安心して生活できるようになったのは。	○江藤さんの活動を目的別に考えさせる。 ○活動を受ける側のコメント等を紹介し、活動の大切さを多面的に思考することができるようにする。	V T R ワークシート
12	4 なぜ江藤さんの活動が震災復興につながるのか予想する。 (1) 一人学び (2) グループ学び (3) 全体学び	・みんなが笑顔になれるから。 ・助け合うことができるから。 ・今城の方々のつながりを作っているから。	○考えたことを付箋に書かせ意見交換や予想をしやすくする。	V T R 写真
【関・意・態】江藤さんが行っている活動に興味を持ち、なぜ震災復興につながるのかを予想することができる。（発言・ノート）				
3	5 学習のまとめを行い、次時への見通しを持つ。	・何のために活動しているんだろう。 ・直接、江藤さんに話を聞いてみたい。	○江藤さんに実際に話を聞く機会を設定し、質問事項等にまとめさせる。	ワークシート

